

こんな「人非人」が副議長か!?

今年2月、改選予定の三豊市議会(香川県)において、何と本紙が「人非人」と表現して連載中の横山強氏が議会の勢力争いに便乗して、城中利文議長グループの推挙支持で同派の仲間として副議長に選出される見込みのようだが、いくら勢力争いとはいへど、仮にも三豊市議会の名誉と権威を自覚する議員さんであれば、こんな無節操な人物を副議長に据えていいのだろうか?こんなに混迷する原因は、複雑な人間関係にある。各会派とも自会派に投ずるか白票かが本来の有様だが、公明党の「込山文吉」「水本真奈美」の両名は、社民党の「三木秀樹」「西山彰人」達による仕打ちを恨み、彼等が「金子辰男」へ投ずる以上、「横山強」を支持する訳ではないが、「横山強」へ投ずるとしている。公明党の「水本真奈美」は詫間地区で横山強への投票には相当悩んでいるようだ。又、「三宅静雄」は同会派ながら「金子辰男」への不信感から「金子辰男」を支持せず、白票を入れるとも。ただ「込山文吉」も過去の議会で「横山強」の発言を糾弾平成26年9月議会で懲罰動議を提出。これを今回横山を支持するものと含めた賛成多数で可決した経緯があり(本誌第36号~37号に掲載)、決して「横山強」を支持してのことではないようだ。共産党の「岩田秀樹」は論外者だ。今回予想される結末は、①抽選、②横山強、③金子辰男か。城中利文議長も抽選だったが、「地位が人を作る」の例え話のようにそうらしくなってきたとは市民や彼周辺の声だ。ひつついたり、はなれたり、何でもありの議員連中に三豊市市民は冷め切っているのであろう。「横山強」という人物の長年の議員としての生き様からして、その本性を知る三豊市民の多くから本紙に懸念の声が寄せられており、急ぎ号外を発行致しました。いくらお飾りの副議長でもそれなりに相応しい人物を選出すべきだとのご意見も届いており、本紙も全く同感であります。三豊市議会の皆さんは市民の冷めた視線を心にとめた行動をされるよう憚りながらご進言致します。

三豊市議のごく一部の人を除いて、議員になって自分が偉くなったと錯覚したような言動が見えると、また議員として実績が市民の目には全く見えない事も。筆者が会った市民の99%の人が怒っていますよ。総有権者の何%の票数で議員職に就いているのかを肝に銘じて、次の選挙では支持票の上乗せを(前回比)実施して下さい。注目しています。

(一部敬称略)